News
Release

株式会社 第一生命経済研究所
Dai-ichi Life Group

2017年4月25日
株式会社　第一生命経済研究所

誰もがスポーツ観戦を楽しむための情報提供のあり方
～ 電光掲示板の活用に期待 ～
聴覚に障害のある大学生・一般の成人対象の調査より

第一生命ホールディングス株式会社（社長 稲垣 精二）のシンクタンク、株式会社第一生命経済研究所（社長 丸野 孝一）では、聴覚に障害のある大学生、および一般の20～69歳の人に対して、スポーツ観戦に関するアンケート調査を実施しました。このほどその調査結果がまとまりましたので、ご報告いたします。

本リリースは、当研究所ホームページにも掲載しています。
URL　http://group.dai-ichi-life.co.jp/cgi-bin/dlri/ldi/total.cgi?key1=n_year

≪調査結果のポイント≫

1．聴覚に障害のある大学生対象のアンケート調査

スポーツ観戦時に感じた不便・不満・不安（P．2）
「アナウンスなどの音声が聞こえないので、試合の詳しい状況がわからない」86.8%

スポーツ観戦時にあればよいと思うサービス・情報・設備（P．3）
「アナウンスなどの音声を、電光掲示板・スクリーンに文字で表示する」88.7%

東京オリンピック・パラリンピックの観戦意向（P．4）
オリンピックは85.9%、パラリンピックは74.6%が観戦を希望

2．一般の成人（20～69歳）対象のアンケート調査

スポーツ観戦時にもっと得られるとよいと思う情報（P．5）
「出場している選手やチーム」52.0%、「試合の進行や結果」38.6%

スポーツ観戦時の情報入手方法に対する希望（P．6）
出場選手やチーム、試合の進行や結果、スケジュールに関する情報を「電光掲示板やスクリーン」で得られるとよいと思う人が過半数

＜お問い合わせ先＞
㈱第一生命経済研究所 ライフデザイン研究本部
研究開発室 広報担当（津田・関）
ＴＥＬ．03－5221－4771
ＦＡＸ．03－3212－4470
【URL】http://group.dai-ichi-life.co.jp/dlri/ldi

≪調査の背景と目的≫

ラグビーワールドカップ2019や2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を控え、障害の有無などにかかわらず誰もがスポーツを楽しめる環境をつくることは、近年ますます重要となっています。

スポーツの「する」「観る」「支える」という要素のうち「する」に関しては、障害者スポーツの振興が重点施策のひとつになっています。また、「観る」「支える」に関しても、障害者が「する」スポーツを一般の人が「観る」、あるいはボランティアとして「支える」という視点から、その理解促進や関心喚起などのための取り組みがおこなわれています。

一方、障害者自身が「観る」という視点では、例えば車いす使用者の競技場などでの物理的なアクセスのしやすさが考慮されることは多いものの、聴覚・言語・視覚に障害のある人などの観戦時における情報入手のしやすさが注目されることはあまりありません。

そこで、今回はスポーツ観戦[注]の際の情報入手に着目し、それらが特に難しいと思われる聴覚障害者に焦点を当てました。ここでは聴覚に障害のある大学生、および一般の人のスポーツ観戦時の情報入手に関する調査結果を併せてみた上で、聴覚障害者を含むより多くの人々がスポーツ観戦を楽しめるようにするための情報提供のあり方を検討しました。

注：両調査では、テレビでのスポーツ観戦についても尋ねましたが、ここでは競技場などで実際に観戦することに関する結果のみをご紹介しています。よって以下でスポーツの「観戦」と表記した場合には、競技場などでのスポーツ観戦を指します。

≪調査概要≫

１．聴覚に障害のある大学生対象のアンケート調査

調査方法	インターネット調査
調査時期	2016 年 12 月
調査対象	国立大学法人 筑波技術大学 産業技術学部の学生　201 人
回収数（率）	71 人（35.3%）
回答者の属性	性別：男性 57.7%、女性 42.3%

※この調査結果は、筑波技術大学の「スポーツ参加、観戦等における視覚障害者・聴覚障害者に対する情報保障および情報支援環境に関する研究」の成果の一部です。同大学は聴覚障害者・視覚障害者のための大学であり、産業技術学部では聴覚に障害のある学生が学んでいます。

※この調査結果の詳細は以下のレポートに掲載され、当研究所ホームページで公開されています。
レポートでは、全国障害者スポーツ大会を観戦する聴覚障害者への情報提供の事例も紹介しています。
「誰もがスポーツ観戦を楽しむための情報提供のあり方 －観戦時の情報入手が困難な聴覚障害者等の視点から－」『Life Design Report』2017 年４月
http://group.dai-ichi-life.co.jp/dlri/pdf/ldi/2017/rp1704c.pdf

２．一般の成人対象のアンケート調査

調査方法	インターネット調査 （株式会社クロス・マーケティングに回答者の抽出および調査の実施を委託）
調査時期	2017 年３月
調査対象	20～69 歳の男女　1,600 人
回答者の属性	性別：男性 50.0%、女性 50.0% 年代：20 代 15.7%、30 代 19.1%、40 代 23.4%、50 代 19.1%、60 代 22.8%

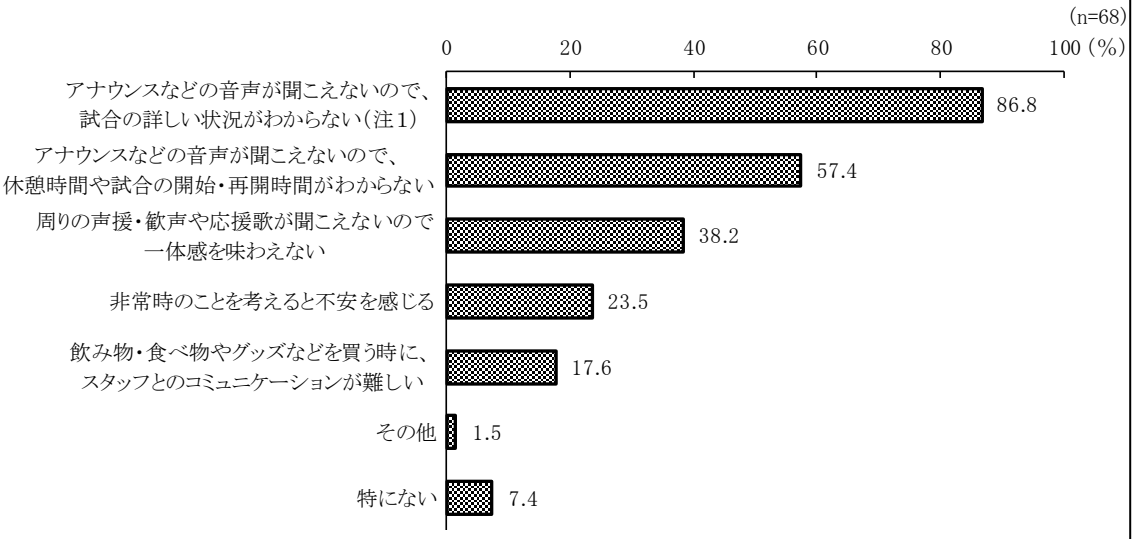
DAI-ICHI LIFE RESEARCH INSTITUTE INC.

～聴覚に障害のある大学生対象のアンケート調査～

スポーツ観戦時に感じた不便・不満・不安

「アナウンスなどの音声が聞こえないので、試合の詳しい状況がわからない」86.8%

図表１　スポーツ観戦時に、音声が聞こえない・聞こえにくいことが原因で感じた不便・不満・不安
＜複数回答＞



注１：「アナウンスなどの音声が聞こえないので、試合の詳しい状況（試合の進行・結果、出場選手の情報など）がわからない」の略
注２：スポーツを「観戦したことがある」と答えた人が回答

聴覚に障害のある大学生の中で、スポーツを競技場などで実際に「観戦したことがある」と答えた人に対し、音声が聞こえないことや聞こえにくいことが原因で、観戦時に不便・不満・不安を感じたことや残念に思ったことを複数回答で尋ねました。

図表１の通り、最も回答が多かったのは「アナウンスなどの音声が聞こえないので、試合の詳しい状況がわからない」（86.8%）、次が「アナウンスなどの音声が聞こえないので、休憩時間や試合の開始・再開時間がわからない」（57.4%）です。いずれも、アナウンスなどが聞こえないことによる情報不足の問題です。また、３位には「周りの声援・歓声や応援歌が聞こえないので一体感を味わえない」（38.2%）という応援に関する問題があがっています。４位の「非常時のことを考えると不安を感じる」（23.5%）に関しては、災害や事故の発生時にアナウンスや警報ベルが聞こえないこと、周囲とのコミュニケーションが図りづらいことなどに、回答者が不安を感じていると思われます。

なお、音声が聞こえないことや聞こえにくいことが原因で観戦時に不便・不満・不安を感じたことや残念に思ったことについては、自由回答形式で具体的に尋ねました。その結果、アナウンスなどの音声に関しては、試合後のインタビューがわからないとの意見もありました。また、応援に関しては、声援・応援歌の内容がわからないことや手拍子のタイミングがつかめないこと、それによって応援に参加しづらいことや参加したいという気持ちが起こらないことなどがあげられました。

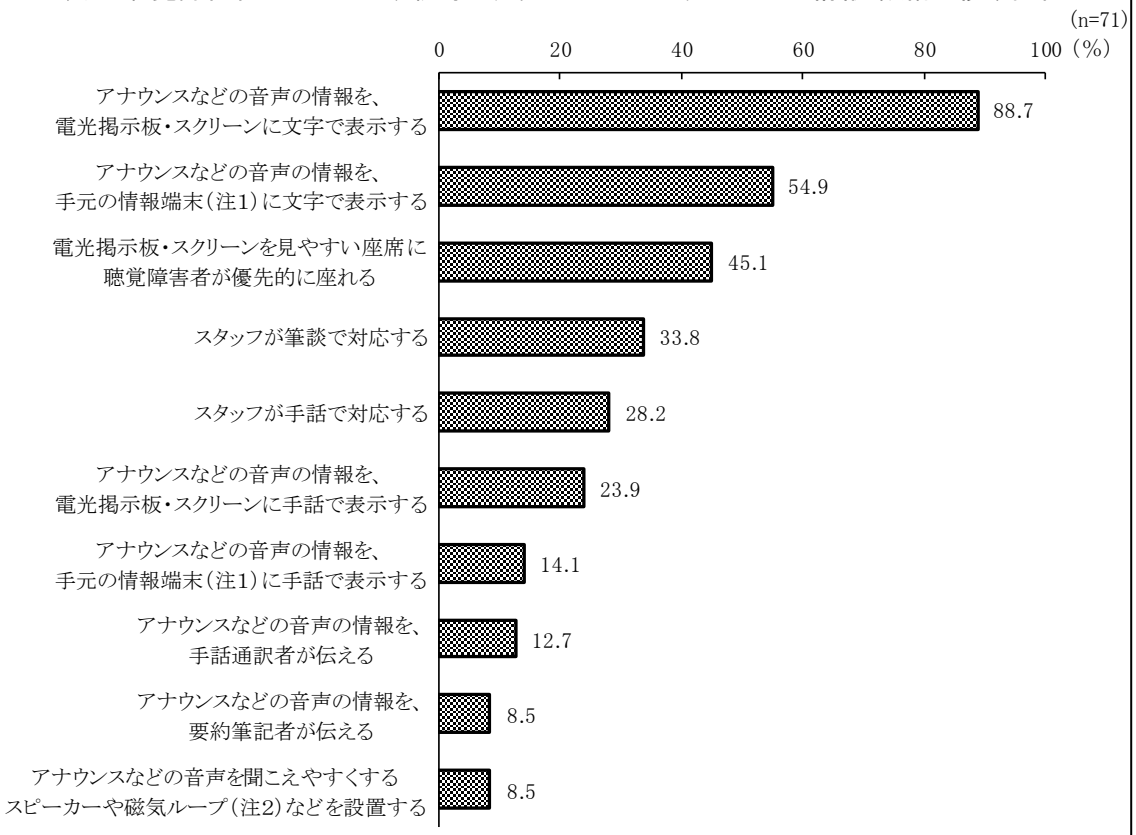
DAI-ICHI LIFE RESEARCH INSTITUTE INC.

～聴覚に障害のある大学生対象のアンケート調査～

スポーツ観戦時にあればよいと思うサービス・情報・設備

「アナウンスなどの音声の情報を、電光掲示板・スクリーンに文字で表示する」88.7%

図表２　聴覚障害者のスポーツ観戦時に、あればよいと思うサービス・情報・設備＜複数回答＞



注１：調査票では「『情報端末』とはスマホ（スマートフォン）、タブレットなどを指します」と注記した
注２：「磁気ループ」とは、音声を補聴器で聞きやすくするための装置
注３：選択肢「その他」「特にない」に対する回答はなかったため、図表では省略

聞こえない人や聞こえにくい人がスポーツを観戦する時に、あればよいと思うサービスや情報、設備を複数回答で尋ねました。図表２の通り、「アナウンスなどの音声の情報を、電光掲示板・スクリーンに文字で表示する」（88.7%）が圧倒的に多く、次が「アナウンスなどの音声の情報を、手元の情報端末に文字で表示する」（54.9%）となっています。いずれも、音声の代わりに文字を表示する情報提供の方法です。

また、聞こえない人や聞こえにくい人が観戦する時に、具体的にどのようなサービスや情報、設備があるとよいと思うか、自由回答形式で尋ねた結果、図表２と同様に電光掲示板・スクリーンや情報端末などを通じて、文字を表示してほしいという回答が多くあげられました。また、提供する情報の内容に関しては、選手名や試合の実況、災害・事故などの緊急時の情報をリアルタイムに伝えてほしい、応援歌の歌詞が表示されればより楽しめる、などの意見がありました。

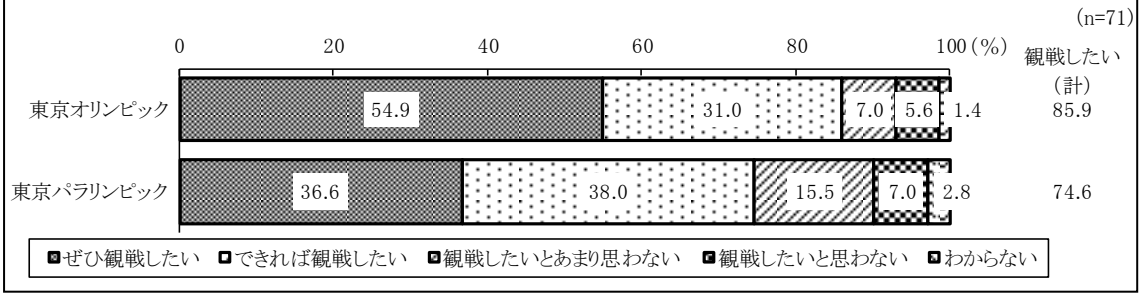
DAI-ICHI LIFE RESEARCH INSTITUTE INC.

～聴覚に障害のある大学生対象のアンケート調査～

東京オリンピック・パラリンピックの観戦意向

オリンピックは 85.9%、パラリンピックは 74.6%が観戦を希望

図表３　東京オリンピック・パラリンピックの観戦意向



2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピックを競技場などで観戦したいと思うかを尋ねました。

図表３の通り、観戦したい（「ぜひ観戦したい」と「できれば観戦したい」の合計）と答えた割合は、東京オリンピックに関しては85.9%、東京パラリンピックに関しては74.6%でした。今回の回答者の東京オリンピック・パラリンピックの観戦意向はかなり高いといえます。

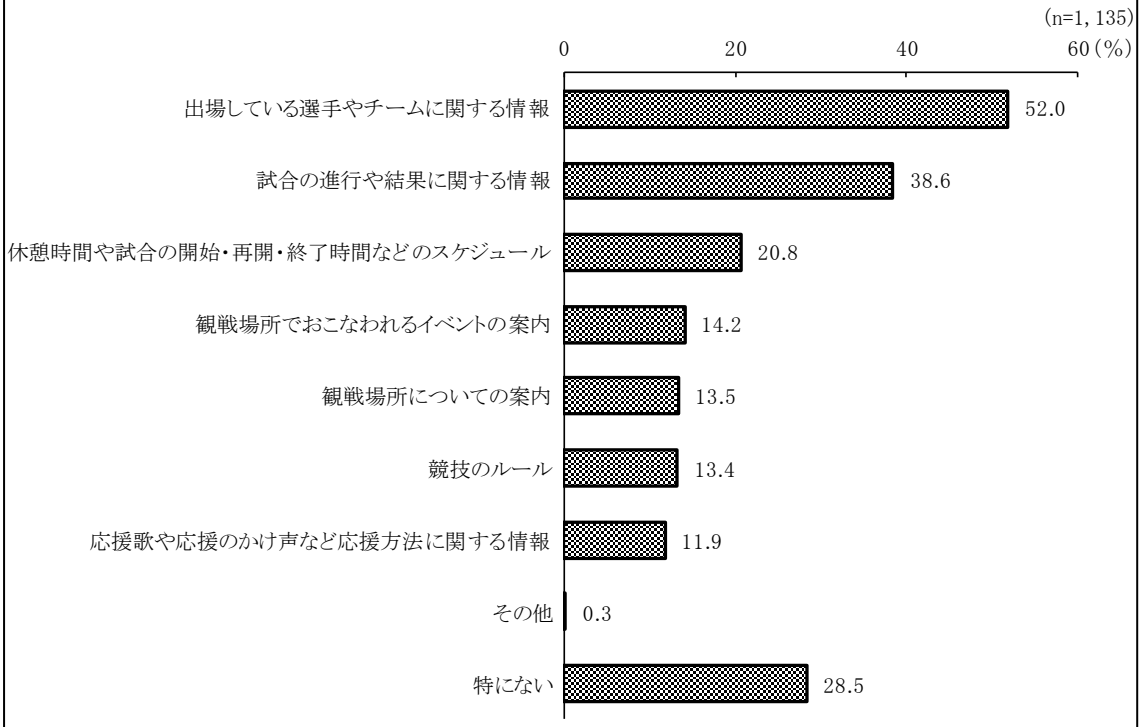
DAI-ICHI LIFE RESEARCH INSTITUTE INC.

～一般の成人対象のアンケート調査～

スポーツ観戦時にもっと得られるとよいと思う情報

「出場している選手やチーム」52.0%、「試合の進行や結果」38.6%

図表４　スポーツ観戦時にもっと得られるとよいと思う情報＜複数回答＞



注：競技場などで何らかのスポーツを観戦したことがある人が回答

続いて、一般の成人（20～69 歳）を対象としたアンケート調査の結果を紹介します。

回答者 1,600 人のうち競技場などで実際にスポーツ観戦をしたことがあると答えた 1,135 人に対しては、スポーツを観戦している時に、どのような情報がもっと得られるとよいと思うか複数回答で尋ねました。

図表４の通り、最も多かったのは「出場している選手やチームに関する情報」であり、52.0%と半数を超えました。次に、「試合の進行や結果に関する情報」（38.6%）、「休憩時間や試合の開始・再開・終了時間などのスケジュール」（20.8%）があがっています。

聴覚に障害のある観戦者だけでなく一般の観戦者も、出場選手・チームに関する情報をはじめ、さまざまなことをもっと知りたいと思っていることがうかがえます。

DAI-ICHI LIFE RESEARCH INSTITUTE INC.

～一般の成人対象のアンケート調査～

スポーツ観戦時の情報入手方法に対する希望

出場選手やチーム、試合の進行や結果、スケジュールに関する情報を「電光掲示板やスクリーン」で得られるとよいと思う人が過半数

図表5　スポーツ観戦時の情報入手方法に対する希望＜複数回答＞

単位：%

		回答者の人数	情報が得られるとよいと思う方法（注2）					
			電光掲示板やスクリーン	音声アナウンス	スマートフォンなどの情報端末	チラシ・パンフレットなどの配布物	張り紙	方法は何でもよい
もっと得られるとよいと思う情報（注1）	出場している選手やチームに関する情報	590	54.9	38.3	37.6	28.8	2.7	10.8
	試合の進行や結果に関する情報	438	67.4	40.4	35.4	12.8	4.3	9.4
	休憩時間や試合の開始・再開・終了時間などのスケジュール	236	63.1	39.0	36.4	32.2	13.1	12.3
	観戦場所でおこなわれるイベントの案内	161	48.4	32.3	37.3	50.3	26.7	11.8
	観戦場所についての案内	153	42.5	28.8	43.8	47.7	28.1	15.0
	競技のルール	152	42.1	24.3	35.5	34.2	4.6	13.8
	応援歌や応援のかけ声など応援方法に関する情報	135	45.9	25.2	32.6	38.5	8.1	17.8

注１：「その他」の情報については、もっと得られるとよいと答えた人の数が少なかったため、図表からは省略
注２：情報を得る方法について「その他」と答えた人はいなかったため、図表からは省略

前ページの質問で、それぞれの情報がもっと得られるとよいと思うと答えた人に対しては、どのような方法でその情報が得られるとよいと思うかについても複数回答で尋ねました。

図表５でその結果をみると、「出場している選手やチームに関する情報」「試合の進行や結果に関する情報」「休憩時間や試合の開始・再開・終了時間などのスケジュール」については、いずれも「電光掲示板やスクリーン」で得られるとよいと答えた人が最も多く、半数を超えました。これに次いで「音声アナウンス」がそれぞれ４割程度となっています。また、「競技のルール」「応援歌や応援のかけ声など応援方法に関する情報」も「電光掲示板やスクリーン」と答えた人が最多で、それぞれ４割台でした。一方、「観戦場所でおこなわれるイベントの案内」「観戦場所についての案内」は「チラシ・パンフレットなどの配布物」が最も多く、５割前後でした。

スポーツ観戦時における電光掲示板やスクリーンでの情報提供を希望する人は、前述のように聴覚に障害のある大学生で非常に多かったですが、一般の観戦者でも少なからずいるようです。

DAI-ICHI LIFE RESEARCH INSTITUTE INC.

≪研究員のコメント≫

◆「ユニバーサルデザイン」の観点での情報提供を

聴覚に障害のある大学生対象の調査では、スポーツの観戦時にアナウンスなどの音声の情報が聞こえないために不便や不満、不安を感じている人が多いことが示されました。この問題に対しては、音声で提供される情報を、聴覚障害者に文字・手話などでリアルタイムに提供するという解決策があります。

その具体策のひとつとしてあげられるのは、電光掲示板の活用です。電光掲示板での情報提供は、聴覚に障害のある大学生だけでなく、一般の人にもかなり望まれていました。従来、音声のみで提供されていた情報が電光掲示板に文字などで表示されれば、聴覚障害者などが情報を得ることができ、かつ音声を聞きそびれた人なども電光掲示板で確認できます。

さらには、個別に情報を提供する方法、例えば映画鑑賞や観劇の際に用いられることがある、小型の字幕表示用端末、タブレット、スマートフォン、眼鏡型の情報端末などで文字を表示する方法も、検討の余地があります。これらの方法を用いれば、電光掲示板などを新設しなくても、情報を必要とする人に伝えることができます。

また、スポーツのチームや大会主催者のホームページ、ＳＮＳ、スマートフォン・タブレット用のアプリなどを通じて、観戦者に情報提供する方法もあります。それらのメニューのひとつとして、音声アナウンスを文字・手話で表した情報や、出場選手・チーム、試合の状況などに関して多言語の文字・音声で解説する情報が提供されれば、聴覚障害者だけでなく視覚障害者や外国人、競技について詳しく知りたい観戦者などにも活用されるでしょう。

以上で述べたように、一般の観戦者向けの設備やサービスに工夫を加えることで、聴覚に障害のある観戦者などの情報入手の壁を低くすることはできます。また、聴覚に障害のある観戦者などに向けた設備やサービスを整えることにより、一般の観戦者の利便性や楽しみを広げられる可能性もあります。障害の有無などにかかわらず誰もが施設やサービスなどを利用できることを目指す「ユニバーサルデザイン」の観点で、スポーツ観戦時の情報提供方法を検討することが必要といえます。

◆臨場感を味わうための工夫も必要

聴覚障害者など情報入手が困難な人に向けた情報提供というと、情報を正確に速く伝えることのみにとかく目が向きがちですが、スポーツ観戦のようなエンターテイメントに関する情報提供を考える上では、観戦者がその場の雰囲気を味わったり周囲の人と体験を共有したりできるようにすることも重要です。その意味で、聴覚に障害のある大学生から、スポーツ観戦時に応援歌や声援・歓声が聞こえないので応援に参加しづらく一体感を得にくいという意見が寄せられた点は注目に値します。競技場などで実際に観戦するからこそ体験できる臨場感をより多くの人が味わえるよう工夫することも、東京オリンピック・パラリンピック開催などに向けた課題でしょう。

（研究開発室　上席主任研究員　水野映子）

DAI-ICHI LIFE RESEARCH INSTITUTE INC.